

(様式1)

令和6年度 自己評価表

愛媛県立伊予高等学校
学校番号 (29)

教育方針	豊かな人間性を育てる教育の推進	重点目標	自らの力で、自らの未来を切り拓く生徒の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～
------	-----------------	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	分かる授業の展開	授業がよく分かる実感できる生徒100% A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：40%以上 E：30%未満	B	生徒の約8割、教員の9割が肯定的な評価を行っていることから、昨年度に引き続き、「分かる授業」が生徒と教員の共通の土台の上に成立している。	教科や学年が連携することで、生徒一人一人が興味・関心を持てるような授業内容の工夫を行いながら、否定的な評価の内容を分析し、授業の改善を図る。
	主体的な学びの推進	課題を解決するため、意欲的に授業に取り組む生徒100% A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：50%以上 E：50%未満	B	約8割の生徒が、授業に対して課題意識を持って取り組んでいると答えていた。特に、専門教科や学校設定教科・科目については約9割の生徒が高い課題意識を持っており、一定の効果を上げている。	教育課程の特性を生かし、個に応じたコース選択や科目選択を行いながら、課題意識が低い生徒の意見を具体的な対応策を講じて、進路実現を目指していく。
生活指導	基本的な生活習慣の確立	あいさつのできる生徒100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	全体的に挨拶はできている。自ら進んでという部分では物足りなさを感じる。生徒の評価よりも教員の評価が低くなっている要素であると思われる。	コミュニケーションの第一歩として、自ら進んで気持ちよく挨拶ができる生徒を増やしていきたい。
		5分前登校ができる生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	生徒や保護者は時間を守る意識が高いと思っているが、教員はそのように思っていない。(あまり62%) 同じ生徒が遅刻を繰り返す傾向が強く、全体の件数としては改善されていない。	粘り強く指導を継続していくとともに、家庭との情報共有を図り改善につなげていきたい。
		交通ルールを守る生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	生徒や保護者は交通ルール等の社会規範が守れていると思っているが、教員はそう思っていない。(あまり50%)ヘルメットの不着用や、携帯電話の使用等の違反が見られた。	生徒や保護者に現状をしっかりと知ってもらうことが必要である。命を守る行動であることへの理解を深めさせ学校生活のあらゆる場面で適切に指導し、徹底していきたい。
	教育相談体制の充実	相談できる相手がいる生徒100% A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：70%以上 E：70%未満	B	「いじめ」等についてのアンケートで「私は、相談できる相手がいます。」と回答した生徒は96%(昨年95%)だった。学校評価アンケートの「伊予高校では先生に悩みなどを相談しやすい雰囲気ができていると思いますか。」に対して「思う」「だいたい思う」が79%(昨年76%)だった。	「教育相談室だより」を毎月発行し、小さい悩みでも人に相談することで気持ちが軽くなることを繰り返し伝える。スクールカウンセラー等を効果的に活用する。
特別活動	学校行事の充実	生徒・保護者の学校行事への満足度100% A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：65%以上 E：65%未満	C	活動の様子を保護者や地域の方へ公開できたことが生徒に充実感を持たせ意欲的な取り組みにつながったと考えられる。開校記念行事や運動会では保護者にも競技に参加してもらうことができた。生徒は79%、保護者は84%が充実していると答えている。	運動会、文化祭ともに生徒の主体的な活動の場を増やすとともに、一般公開を行う。保護者、地域の方々に参加していただける内容を更に見直し、活性化・レベルアップに努めていきたい。
	部活動の活性化	部活動をとおして心身を成長させることができたと思う生徒100% A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満	B	大会やコンクールに向けて生徒の活動意欲を喚起する指導者の工夫・研究により積極的に取り組む生徒が多くなってきたことが高評価につながったと考えられる。部活動への加入率は高い。	部活動を手段として、どう将来に生かすことができるかを考えて取り組ませたい。生徒・保護者・教員が納得することのできる部活動運営を推進していきたい。
	ボランティア活動や地域のイベントへの意欲的な参加	ボランティア活動、地域交流などのイベントに年間10回以上参加 A：7回以上 B：5回以上 C：3回以上 D：1回以上 E：参加なし	D	低評価ではあるが、ボランティア活動や地域貢献活動への参加意欲が高い生徒が多い。地域での活動の場が広がっており、防災イベントやスポーツイベント、募金活動等に多くの生徒が参加することができた。	地元の地域交流行事への参加依頼も増えてきた。積極的に参加したり、「総合的な探究の時間」を生かすなどの工夫で、地域との連携を更に深めていきたい。

※ 評価は5段階 (A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった) とする。

(様式1)

令和6年度 自 己 評 価 表

愛媛県立伊予高等学校
学校番号 (29)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校魅力化	地域との連携	地域と連携した取組を行い、情報発信の回数が年間100件以上 A：80件以上 B：70件以上 C：60件以上 D：50件以上 E：50件未満	A	2月14日時点で124件と目標を達成することができた。学校公式InstagramやYoutubeなどのSNSを通じた情報発信にも力を入れた。	地域との連携した学びの中身や発信内容について見直し、効果的な学びにつながっているかについても検証しながらより良い教育に努めたい。
	学校生活への充実感	伊予高に進学して良かったと思う生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	「よい」「どちらかというよい」と回答した生徒が91%となった。昨年度に並び、具体的目標として設定したAを達成できた。	否定的な回答の9%にも注目し、本校が目指す一人一人を大切に教育に一層力を入れていきたい。来年度こそ、100%の達成を目指したい。
	学校見学会	本校の学校見学会への来校者500名以上 A：500名以上 B：450名以上 C：400名以上 D：350名以上 E：350名未満	A	今年度6、7、8月に計3回学校見学会を実施し、中学生561名、保護者・中学校教員228名の合計789名に参加していただき、目標を達成できた。	来年度は、新学科・コースに係る生徒募集も開始する。中学生やその保護者に本校の特色や魅力を分かりやすく発信するとともに、見学会の内容も改善したい。
進路指導	進路指導体制の充実	ホームルーム担任の個別面談を年6回以上実施 A：6回以上 B：4回以上 C：3回 D：2回 E：2回未満	B	科目選択や進路選択における重要なポイントで適宜実施できた。	必要な生徒に必要な時期に実施できるように、学年と進路課が連携を取りながら実施していきたい。
		進路希望実現100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	現段階で、ほとんどの生徒が4月当初の進路希望の第1、2志望への進路が決定している。まだ数名の生徒が進路実現に向けて今後も受験予定である。	早期の進路目標の設定を促していきたい。また、進路目標と現段階での学力差を把握させ、目標を達成するための具体的な取組について助言していきたい。
		国公立大学合格10名、松山大学合格100名	B	地元志向の生徒が大半で、県外の国公立大学に挑戦する生徒が少なかった。松山大学に関しては、現段階で目標は達成できている。	国公立大学については、1年次からこまめに面談を行い、様々な選択肢を示す必要がある。県外に目を向けさせることで、総合型・学校推薦型に挑戦する生徒を増やしていきたい。また、一般選抜に向けて最後まで諦めずに取り組むことのできる生徒を育てるため、個々の生徒に応じて丁寧に指導していきたい。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権意識が高揚したと実感した生徒100% A：100% B：85%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	学校評価アンケートで「人権・同和教育ホームルーム活動に積極的に参加できた」と「思う」「だいたい思う」と答えた生徒が95%（昨年97%）だった。また、3年生へのアンケートの「伊予高校での学習によって、あなたの人権問題に対する関心はどう変わりましたか」に対して「とても高まった」「ある程度高まった」と回答した生徒が89%（昨年94%）だった。	様々な活動の中で、生徒同士で互いの違いに気づき、認め合えるような雰囲気づくり、言葉掛けをする。自分の考えをまとめたり、他者の考えと比較したりできるように、月に一度の「人権デー」には、生徒に身近な人権問題を取り上げて発信する。
		自他の存在を大切に思える生徒100% A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：70%以上 E：70%未満	B	「いじめ」等についてのアンケートで「私は、自分のことを大切に思っています。」「私は、周囲の人たちのことを大切に思っています。」と回答した生徒はそれぞれ、98%、99%（昨年97%、98%）だった。	全ての生徒の自己肯定感を高め、自他を大切に思えるように指導したい。生徒の頑張りが活躍を見逃さず、教員同士で共有し、積極的に言葉掛けを行う。
読書指導	読書を通じた自己練磨	年間読書冊数 20冊 A：20冊以上 B：10冊以上 C：5冊以上 D：1冊以上 E：0冊	C	3学年の読書冊数の平均は8.0冊で目標は達成できなかった。1～4冊の生徒が最も多く49%、0冊の生徒は10%であった。年間20冊以上の目標を達成できた生徒は7%で昨年度(12%)より減少した。100冊を超える生徒が少数いる。	今よりも積極的に本を読みたいという意欲を持つ生徒が64%いる。この生徒たちが実際の行動に移せるよう、国語以外の授業でも本を紹介したり、学級文庫の見直しをしたりするなど、生徒が読みたいと思える本に触れる機会を増やす取組を行っていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

(様式1)

令和6年度 自 己 評 価 表

愛媛県立伊予高等学校

学校番号 (29)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
業務改善	教職員の業務と職場環境の改善	業務の効率化と職場環境の改善が進んでいると感じる教職員 100%以上 A : 100% B : 80%以上 C : 60%以上 D : 40%以上 E : 40%未満	B	90%の教職員が改善が進んでいると捉えている。庶務事務システムの運用などICTの活用は業務の効率化に一役買っているが、慣れるまでは煩雑に感じていると思われる。	職場環境の改善には毎年取り組んでいる。施設設備に限られているが、できる範囲で教職員の意見を吸い上げ、働きやすい職場の実現に向け取り組んでいきたい。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。